

第3回景気ウォッチャー調査研究会 議事概要

- 1 日時：令和7年9月10日（水）16：30～18：00
- 2 場所：中央合同庁舎8号館 特別中会議室（ウェブ会議システムを併用）
- 3 出席者
 - （1）委員（座長以外は五十音順）
宅森昭吉座長、岩下真理委員、鈴木将之委員、土屋隆裕委員、
広田茂委員、前田和馬委員、大和香織委員
 - （2）ヒアリング参加有識者
本橋直樹 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 部長
岩田賢 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 副主任研究員
富田学 北海道二十一世紀総合研究所 主任研究員
木村和也 東北活性化研究センター 課長兼主任研究員
間中敬子 日本経済研究所 副主任研究員
前田由美子 北陸経済研究所 研究員
安藤栄祐 四国経済連合会 事務局次長
松嶋慶祐 九州経済調査協会 次長
島袋陽太 南西地域産業活性化センター 研究員
 - （3）内閣府
吉岡秀弥政策統括官、茂呂賢吾官房審議官、岡野武司参事官、
坂口博紀参事官補佐

4 議事概要

主な意見は以下のとおり。

- ・ウォッチャーが辞任した際の後任の確保や、新たなウォッチャー探しにも、個人の価値観の変化、企業のコンプライアンスの問題、個人商店が少なくなり大規模事業者が主体となっていることもあり、ウォッチャー探しに苦労している。サンプルの拡充を行う場合にも、こうした中でいかに信頼性の高いサンプルを確保するかが重要な視点である。
- ・2月や年末など月によっては調査期間が短く、回答の回収に苦労している。25日から月末にかけての調査期間がネックになっているならば、ワークライフバランスの観点からも、調査期限の見直しが必要ではないか。
- ・高齢者や会社でインターネットアクセスを制限されている方など事情を抱えている方もいるので、電話による聴取を止めることはできないが、将来の取組

としてパソコンやスマートフォンによる回答を基本とすることも考え方としてあるのではないか。

- ・物価・賃金が上昇している中で、謝礼金額が変わっていないことは調査に協力する意識に影響を与えている可能性がある。

(以上)